

随想

情報の交通整理

松島五郎

(地方財政審議会委員・(財)消防科学総合センター初代理事長)

先日の東京の地震は、久しぶりに震度5というかなり強いものでもあり、それにメキシコ大地震の直ぐ後でもあったので「ソレ来タ!!」という感じも手伝って、かなりの騒ぎになったようである。

私も家でもそろそろ寝ようかと言っていた時であったので、家内は慌てて寝室の雨戸を開けたりしたが、雨戸の外には植木鉢の棚などがあって、慌てて飛び出したところで棚か鉢にけつまづいて足を折るか不断から弛んでいる瓦が落ちて来て頭に強烈パンチを食うかといったところであったろう。それは、それとして驚いたのは、むしろそれから後のことである。先ず、10時頃に電話がかかって来た。出てみると何とロンドンにいる娘からの見舞の電話である。まさかこの程度の地震で、起こってから一時間もたたないうちに遠くロンドンの娘の家にまで伝わっていくとは想像もつかないことだった。

聞けば、テレックスで婿さんの勤めている会社に情報が入り、それを知らされたものだということだ。成程、情報化時代とは、こういうものを言うのかと今さらながら驚いた次第だ。

ところがその後11時頃には大阪の親戚から、さらに12時頃には浜松にいる甥から、という具合に相次いで見舞の電話がかかって来て、お蔭で、地震より電話の応対で興奮してしまって眠れなくなったのは哀れであった。テレビでも、通信施設が被害を受けたわけではないが通話が混んでなかなか通じない状態が続いているので、なるべく不急の電話を控えるようにというような意味の放送があったそうだが、もっともなことである。

今回の東京の地震は、幸い特別な被害もなく「泰山鳴動して鼠一匹」の感はあったが、それでもいくつか教えられるところがあった。

一つには、私個人の経験から見ても、情報の伝達がいかに迅速、しかも地球的規模であるか、ということであり、一つには、こうした文字通りの広報——公の情報——というべきものが出されるとその反応というか反作用というか、大量の個人的情報の往来が引き起こされるということである。

前者は、災害に対して迅速的確な対応をする上に極めて重要なことはいうまでもないが、後者についても、お互い生活している以上、仕事のこと、家族のことその他いろいろの事柄について情報をもつことは必要であり、単なる儀礼のお見舞は別としても個人的な情報交換は通信を混雑させるから差控えるべきだとも一概に言い切れないことであり、また簡単に規制してしまうことも無理であろう。しかし、今回程度で済めば大したことはないが、大きな災害が起こった場合私自身に案があるわけではないが、後者のあり方についても不断から対応を検討しておく必要があるようである。